

裏目

仕込みは万全

三井  
隆

人  
物

黒原毅（41）番組制作会社・ディレクター

大鳥栄三（37）同・カメラマン

忍野一也（25）同・アシスタントディレクター

警官 A

警官 B

夫

妻

○繁華街・A（夜）

警官AとBが、街中を徒歩でパトロールしている。

その後を黒原毅（41）と、カメラを構えた大鳥栄三（37）がついていく。

黒原、周囲の様子を盛んに窺っているが、舌打ちして嘆息をつく。

大鳥「黒原さん、そんなに気を揉んだって事件は起こりやしませんって」

黒原「うるせえ。大鳥、貴様『激動・警察24アワー』を夜のお散歩番組で終わらせるつもりか！」

警官A、微笑しながら振り返る。

警官A「テレビ屋さんとしちや、画にならないんでしようけどね」

警官B「何にもないに、越したことはありませんよ」

黒原「（追従笑い）それは、まあ、そうですね。（大鳥に）先行ってる」

黒原、立ち止まり携帯電話を掛ける。

黒原「おう、俺だ。忍野、準備は出来てんだ  
ろうな」

○繁華街・B（夜）

忍野一也（25）、携帯電話に出ている。

忍野「それが：：頼んどいた連中、仲間から  
飲み誘われたとかで、どっか行っちゃい  
まして：：どうしましょう」

黒原の声「どうしましょうじゃねえ、馬鹿野  
郎！」

黒原の怒声に縮こまる忍野。

忍野「すいませんすいません！」

黒原の声「もうすぐパトロールがそっちに行  
くんだぞ。『今夜の街は平穏無事で、何も  
起こりませんでした』で済むと思ってるの  
か、このタコ！」

忍野「でも：：予め頼んでワザと喧嘩させる  
なんて、これってやっぱりヤラセ、ですよ  
ね」

○ 繁華街・A（夜）

黒原、警官A・Bと大鳥を先行させて  
携帯に怒鳴っている。

黒原「んなこたあ、百も承知だ。忍野てめえ、  
下っ端の分際で、俺に意見しようってのか」  
忍野の声「いえ、あの、僕は……」

黒原「この業界舐めてんじゃねえぞ、このク  
ズ野郎！ 何にも出来ないくせに一人前に  
口答えしやがって」

忍野の声「ただ、後々、問題にならないか、  
それだけ心配……」

大鳥、先刻からの黒原の様子を振り返  
りながら気にしている。

黒原「ああそうかい、どうしても俺の足を引  
っ張ろうってんなら、てめえなんざクビだ。  
何処へなりと失せろ！」

忍野の声「あ、あの黒原さ……」

黒原「どっか別の会社に移ろうなんて、甘い  
こと考えるんじゃねえぞ。お前の居場所な  
んか、どこにもねえからそう思え！」

黒原、電話を切ると、早足で大鳥の元に戻る。

黒原「まったく、使えねえったらありやしねえ」

大鳥「黒原さん、今のはちよつと言い過ぎじゃないですか。最近は会社もパワハラの種類には神経質になってますし……」

黒原「いいんだよ。俺は俺のやり方ですつと番組を作つて来たんだ」

大鳥「それに押野の奴、大人しそうに見えて、一旦キレると危ないって噂ですよ」

黒原「それも承知の上さ。あいつが今、俺に襲い掛かって来れば、むしろ儲けもんだ。

事件として画になるじゃないか」

大鳥「(呆れて) 大した人ですね……」

大鳥、仕事に集中しようと、先行する警官たちにカメラを向ける。

大鳥「(独白) 知らないぞ、俺は……」

○ 繁華街・C (夜)

パトロール中の警官A・Bの後方を歩  
く黒原と大鳥。

警官A・B、無線に入った連絡を聞い  
ている。

警官A「……はい……了解。直ちに急行しま  
す！」

警官AとB、走り出す。黒原と大鳥も  
慌てて後を追う。

黒原「何かあったんですか！」

警官B、振り返り、

警官B「この先の住宅で、住人同士のトラブ  
ルのようです！」

黒原「よっしゃ！ 派手にやってくれよ！  
（大鳥に）どうなることかと思ったが、つ  
いてるな！」

カメラを担いでいる大鳥は、走るので  
精一杯で、答えるどころではない。

○住宅街・ある住宅前（夜）

商店と住宅が混在している地域の一角。

玄関の戸が開いた戸建て住宅があり、  
近隣住民や通行人が遠巻きにしている。  
住宅の中から怒声が聞こえて来る。

妻の声「もう嫌だ！ あんたの嘘には愛想が  
尽きた！ 出ていけ！」

夫と思しき男が、後ずさつて玄関から  
出て来る。同時に食器や雑貨などが投  
げつけられる。

夫「落ち着けて！ 何度も言うようだけ  
な、あの女とはただの仕事上の……」

妻が出てきて、モップで夫に殴りか  
かる。

妻「まだシラを切るかあ！」

夫「やめろっ！」

警官A・B、遅れて黒原と大鳥が到着  
する。

警官A「二人とも、落ち着いて！」

警官A・B、夫婦の間に割って入る。

× × ×

少し間を置いてカメラを向けている大



鳥と、その横で愉快そうな黒原。

黒原「ほう、夫婦喧嘩か。結構怒り狂ってるな。いいぞいいぞ」

× × ×

妻「なんで警察が来てんのよ。卑怯じゃないあんた！」

夫「俺じゃないよ。お前があんまり騒ぐから、近所の誰かが……」

妻「またそうやって人のせいにする！」

警官A「まあまあ、とにかく落ち着いて……」

夫「そうだ。お前、どうかしてるんだ」

警官B「旦那さんも、怒らせるようなことは」

妻「ふざけんなあ！」

妻、家の中に引き返す。

夫と警官A・Bが訝しんでいると、包

丁を持った妻が駆け戻って来る。

妻「許せない！ 絶対！」

妻と睨み合う夫、警官A・B。

× × ×

離れたところで黒原、面白がっている。

大鳥は冷静にカメラを構えている。

黒原「おっ、いよいよ刃傷沙汰だ。包丁の動きを確実に追えよ」

大鳥「はいはい、分かっていますよ……」

× × ×

妻がカメラに気づく。

妻「そこのお前！ 何撮ってんだよ！」

妻、カメラ（つまり大鳥）に向かって走って来る。

周囲の野次馬がわっとざわめく。

大鳥「ひっ！」

大鳥、後ずさる。黒原は既に逃げて野次馬の人ごみに紛れている。

妻が包丁を振り上げた瞬間、動きが止まる。妻は後ろから警官Aに羽交い絞めにされている。警官Bが素早く包丁を取り上げる。

妻「（大声を上げて泣く）わあーっ！」

妻、その場に泣き崩れる。

× × ×

警官 A に促されて妻がパトカーに乗り込む。発車し走り去るパトカー。

黒原、警官 A・B に挨拶している。脇で放心状態の大鳥。

黒原「いやー、お手柄ですね。こっちもいい画が撮れました。ありがとうございます」

警官 A「そうですか、ですがプライバシーには十分配慮……」

黒原「分かっています！ 背景も含めてボカシを入れますんで、大丈夫です」

警官 B「そこはよろしく。では我々はこれで」

警官 A・B、敬礼して去っていく。

黒原「どうも、お疲れさんでした！」

### ○住宅街・道路（夜）

黒原と大鳥、歩いている。付近に人気はない。

大鳥「じゃ、俺、車取って来るんで、この辺で待っててください」

黒原「おう、よろしく」

大鳥、歩き去る。

黒原、煙草を取り出して火を点けようと  
とする。

ドカッ！ と、刃物で突き刺す音がし  
たと思うと、黒原、煙草を取り落とす。

忍野の声「ここは、路上喫煙禁止だろ」

忍野、黒原を背後から刃物で刺してい  
る。

黒原「お……忍野、てめえ……」

忍野「こっちが大人しくしてりや、言いたい  
放題、やりたい放題……ふざけんな！」

忍野、刃物を抜くと、二度三度と切り  
つける。

忍野「うおお！」

黒原「う、ぐっ……！」

黒原、その場に倒れる。

忍野、悲鳴を上げながら走り去る。

黒原「……カメラは……クソ、押野……てめ

えはどうして、そんな、間が悪いんだ……」  
地面に血が広がっていく。